

事故の種類	指定物質名	事故原因物質名等の詳細	事件の概要	事件の原因(推定含む)	被害状況
死亡 魚のへい死 水道取水停止等	ヒドロキシルアミン	ヒドロキシルアミン	再蒸留塔の爆発・炎上事故に伴い、河川へ流出した。	ヒドロキシルアミン製造工程における想定外の工程異常	作業員4名死亡、建物の窓、屋根全壊、周辺の建物にも被害。河川のpH低下、魚のへい死、水道の取水停止、農作物にも被害が発生。
	硫酸	硫酸			
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム			
水道取水停止	塩素酸及びその塩	塩素酸ナトリウム	ドラム缶で希釈中、水道の蛇口からホースが外れ、ホースから逆流し排水溝から河川へ流出した。	ホースの接続不良	水道の取水を一時停止。
魚のへい死	塩化水素	塩酸35%	貯蔵タンクへの注入時にタンク亀裂が発生し約4,000Lが流出した。	ガス抜きパイプの損傷によりタンクに亀裂発生。	流出した河川において、魚が多数へい死。
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム	中和処理が不完全なまま、アルカリ廃液600L場外へ流出した。	総処理水量の見込みの誤りにより、中和処理が適切に行われなかった。	河川の排水路付近において、魚がへい死。また、Phの上昇が認められた。
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム	ペットボトルなどの製造工場で殺菌剤の過酢酸中和用の水酸化ナトリウム約10tが流出。工場は希釈用に1540tの水を流し、下流でpHを測定したが、市や警察への連絡は翌日であった。		ウナギやコイなど数百匹がへい死。
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム	飲料メーカーの工場から約3,100Lが流出。	工場の屋根の配管の破損	ドジョウなど約1,600匹がへい死。
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム45%	コンテナを運搬中、貯蔵施設の蛇口部分を破壊してしまい、約400Lが敷地内及び河川へ流出した。	フォークリフトの操作ミス	流出した河川において、魚が多数へい死。
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム 25%	屋外タンクから工場使用箇所への輸送パイプから水酸化ナトリウム約4,000Lが漏れ、河川へ流出した。	恒常的に接続してあるはずのパイプの継ぎ手が何らかの人為的な力により外れ、水酸化ナトリウムが漏れた。	魚類がへい死(約300匹)。
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム(濃度不明)	pH12~13程度に調整した水酸化ナトリウム水溶液貯蔵槽清掃作業の際、貯蔵槽に残っていた残液を誤ってこぼしてしまい、5L程河川へ流出した。	くみ上げ時の作業ミス。また、貯蔵槽周辺には防液堤などの設備が無かった。	河川内の魚類約50匹がへい死。
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム(48%)	トラックの荷台からおろそうとしたところ、容器が転倒して破損し、約300~400Lが流失、側溝を通して近くの河川へ流出した。	トラックからおろす際の、リフトの操作ミス。	当初、現場近くの川において、魚がへい死。
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム溶液(25%)	水酸化ナトリウム溶液の希釈作業中、タンクから4トンの同溶液が漏れ出し、排水溝を伝って近隣を流れる河川へ流出した。	①コックの閉め忘れ ②防液堤の排出口ホースが地下ビッドにつながっていなかった	流出した河川において、魚多数へい死。
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム(24%)	食品製造工場にて貯蔵タンクに亀裂が発生し、約10トンが雨水配管を通じて河川へ流出した。	貯蔵タンクの管理不良	流出した河川において、魚がへい死。
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム(48%)	保管タンクから計量タンクへ移送管のバルブを閉めずに作業したため、水酸化ナトリウム(48%)2.3m ³ が計量タンクから溢れ出し、工場内や敷地に隣接する河川へ流出した。	作業開始時にバルブの開閉状態の確認を怠っていた。	敷地に隣接する河川に流入し、小魚約2,500匹がへい死。
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム(50%)	水酸化ナトリウムを含む劇物を製造中に爆発を起こしたため、劇物を含んだ消防用水の一部が水路へ流出した。	安全管理が不十分であった。	水路と河川の合流地点付近において、魚が数匹へい死。(従業員及び周辺住民への健康被害なし。)
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム	イオン交換樹脂を洗浄中、水酸化ナトリウムの配管が破裂し、流出した。	洗浄用の水酸化ナトリウムを高温のまま塩ビ管に送流させた。(操作ミス)	約40kg(推定5,000匹)の魚がへい死。
	スチレン	スチレン	化学工場からスチレンが流出した。	バルブ操作のミスによる。	ニゴイ等約100尾がへい死。
	硫酸	硫酸(希硫酸)	タンクローリーへの充填作業中、ローリー上部の防液堤から溢れ出て、河川等へ流出した。	充填作業中の作業員の居眠り	隣接河川において、ハヤ等の小魚(総重量約2kg)がへい死。
	硫酸	硫酸(原体)	屋外タンクより濃硫酸約2000Lが排水路を経由し、河川へ流出した。	バルブの閉め忘れ。また、防液堤も設置されていない。	魚類がへい死(約500匹)
	硫酸	硫酸(98%)	タンクローリー車から工場内タンクへ移送中に、200~300Lの濃硫酸が漏れ側溝経由で付近の河川へ流出した。	移送ホースの破損	河川において魚が多数へい死。(人的被害なし)
	硫酸	硫酸(68%)	硫酸貯留槽に亀裂が入り硫酸約35Lが流出した。	貯留槽の老朽化	流出した河川において、魚が数尾へい死。
	硫酸	硫酸(98%)	貯蔵タンクから流出した硫酸が防液堤のひび割れから地下に浸透し、周辺の河川へ約527L流出した。	貯蔵タンク及び防液堤の老朽化	魚類のへい死。(人への健康被害は無い。)
	硫酸	硫酸(20%)	廃硫酸タンクから廃硫酸がオーバーフローし、約2,700Lが公共用水域へ流出した。	タンク液面計の故障及び漏洩・流出防止対策の未整備。	鯉、鮒、鮎、鱒など数百匹がへい死。(人的被害なし。)
次亜塩素酸ナトリウム	次亜塩素酸ナトリウム	浄水場から98Lが排水された。	液体塩素消毒剤タンク(1,000L)を清掃中に誤って排水した。	下流3kmにわたって魚(約150kg)がへい死	
次亜塩素酸ナトリウム	次亜塩素酸ナトリウム(12%)	プール(スイミングクラブ)から消毒用の次亜塩素酸ナトリウム約40Lが排水された。	施設内に誤ってこぼした。	コイ、オイカワなど約1,000尾がへい死	
一・二・四・五・六・七・八・一〇 クタクロロ二・三・三a・四・七・七a ヘキサヒドロ四・七・メタン 一H-インデン(別名クロルデン)	一・二・四・五・六・七・八・一〇 クタクロロ二・三・三a・四・七・七a ヘキサヒドロ四・七・メタン 一H-インデン(別名クロルデン)	ドラム缶で屋外に保管していたところ、ドラム缶の腐食によりクロルデン、クロルピリホスが河川へ流出した。(河川を汚染したものと推測)	保存方法が不適切であったため容器が腐食した。	流出した河川において、魚が多数へい死	
チオリン酸O・O-ジエチル-O 一(三・五・六-トリクロロ-二-ピリジル)(別名クロルピリホス)	チオリン酸O・O-ジエチル-O 一(三・五・六-トリクロロ-二-ピリジル)(別名クロルピリホス)				
塩化水素	塩化水素 35%	屋外タンクから塩酸を作業所内に供給する際、閉め忘れたバルブがあり、予定外のタンクに塩酸が注入され、同タンクの空気孔から、約100Lの塩酸が漏洩し、その一部は工場外へ漏洩した。	作業前の確認不十分(バルブの閉め忘れ)。	近隣住民22名が眼の痛み、咳などの軽い症状があった。	

健康被害	塩化水素	塩化水素ガス(濃度不明)	塩化水素を発生させる設備の配管に亀裂が生じ、約84kgが屋外に漏洩した。	地震により配管のずれが発生し、亀裂が生じた。	隣接する会社の従業員10名が眼の異常を訴えたが、受診はせず。
	塩化チオニル	塩化チオニル(95%)	塩化チオニルをタンクへ移送中、作業員が持ち場を離れ、スイッチを切るのが遅れた為、過量の塩化チオニルが流出し、排水溝の水と反応し、塩化水素ガス並びに亜硫酸ガスが事業所外に漏洩した。	作業中に持ち場を離れた。	隣接するホームセンターの客2名が、体調不良を訴え、病院に搬送された。
	過酸化水素	過酸化水素(8%)	減圧蒸留施設の洗浄時、使用していた洗浄水(過酸化水素8%)があふれ出て、残渣等から蒸気ミストが発生した。残渣等の施設外流出はなし。	洗浄水排出ポンプの故障	従業員5名負傷、また、周辺住民避難
	臭素	臭素	予備校の化学の授業中、教員が誤って臭素の容器を落として容器が破損し、臭素が漏洩した。	取扱上の不注意	生徒9名がのどの痛み
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム(48%)	事業所タンクから停泊中のタンカーへ水酸化ナトリウムを搬送中に、配管3ヶ所から水酸化ナトリウムが事業所内に2,000L漏洩、海上へ4,000L流出	搬送中船側がバルブを急速に閉じたために配管に圧力がかかり破損した。	隣接する事業所の従業員、関係者11名が被液(いずれも軽症)
	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム(8%)	亀裂の入った配管から水酸化ナトリウム溶液が敷地外に飛散し、通行人が霧状溶液を浴びた。	配管の老朽化。	3名受診(顔がひりひりした程度)
	硫酸	硫酸	貯留タンクの出口管接続部から約7トンの発煙硫酸が防液堤内に漏出し、白煙が発生した。	接続部パッキンの劣化	周辺住民3人と報道関係者8人の計11人がのどの痛みを訴え医療機関を受診した。症状は軽症で全員回復。
	硫酸	硫酸(80%)	通常使用しないタンクに製造品目の混酸が連通ラインから流入し、流入先タンク上部の腐食部分から120L漏洩した。	硫酸タンクの劣化	周辺住民5名に目や喉の痛みが発生し、うち1名が医療機関を受診したが重篤な健康被害発生はなし。
	クロルピクリン	クロルピクリン(原体)	クロルピクリンの製造工程で脱水のため充填器に移す際作業員がバルブを閉め忘れ、脱水装置から約6.5Lが工場内へ流出した。	作業工程での監視体制の不備及び作業員の不注意。さらに脱水装置からオーバーフローした際、警報装置の動作不良により作動しなかった。	周辺住民3名が眼の刺激を訴えたが、入院、加療には至らなかった。
	ホスゲン	ホスゲン	改造工事等のために、鉛直方向に設置された配管の継手部に取り付けられていた仕切板を取り外す際に、当該継手部からホスゲン(約127g)を含むモノクロルベンゼン20Lが漏洩した。	改造工事開始時において、配管内のホスゲンが完全に除去されていなかった。このため、改造工事中に鉛直方向の配管をつたわり仕切版上部に流れ落ち、滞留していた。	51名受診(内7名入院)
クロルピクリン	クロルピクリン(80%)	火災によりクロルピクリン(80%)が20リットル入ったドラム缶が30個破裂し、缶内の全量又は一部が漏洩した。	漏電による火災	消火にあたった消防士1名が目の痛みを訴えた	
健康被害 異臭	エチル＝(Z)－三－[N－ベンジル－N－[メチル(－メチルチオエチリデンアミノキシカルボニル)アミ]チオ]アミノ]プロピオナート(別名アラニカルブ)	アラニカルブ(80%)	アラニカルブを含む農薬原体を加熱中、ドラム缶の内圧が上がり約120kg飛散した。	保温器の異常高温(原因不明)	作業員1名が吐き気を訴え、周辺住民から異臭の苦情があった。
異臭	塩化水素	塩酸(35%)	タンクのゴムライニングにピンホールが発生し、約500Lが防液堤内に漏洩し塩化水素ガスが発生した。	タンクの老朽化	周辺地区で異臭が発生した。
	クロルスルホン酸	クロルスルホン酸(原体)	タンクローリーに移し換えていた際に、オーバーフローして外に約10リットルあふれて塩化水素の白煙を大気中に飛散した。	作業員の不注意によるオーバーフロー	周辺地区で異臭が発生した。
草枯れ	塩化水素	塩酸35%	塩酸タンクのドレンバルブから9.4kL漏洩した。	タンクに附属するドレン配管系統のドレンバルブの損傷	ガスにより、周辺の草木が枯れた。
白濁	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム	排水の中和のために使用する苛性ソーダの貯蔵タンクを解体中に、苛性ソーダが運河へ流出した。	苛性ソーダタンクを解体・撤去するため、タンク底部を水で洗浄した。当該タンク設置エリアの防液堤内の床面から洗浄したアルカリを含んだ排水が地下浸透し、流出したと推定される。	運河が白濁した。
通行止め	水酸化ナトリウム	水酸化ナトリウム24%	工場内の貯蔵タンクを移動する際に、タンクを破損させ、工場敷地内外に約2トンが流出した。	タンク移動作業時の運転作業ミス	一般道路の一時通行止め